



ドクター板東の メディカルリサーチ Vol. 11

～南米で名優エビータを考える～

<http://hb8.seikyou.ne.jp/home/pianomed/>

筆者は2006年10月、国際学会に出席するため、アルゼンチンの首都ブエノス・アイレスを訪れた。ちょうどそのとき出会ったのが、とっても素敵な彼女。とは言つても、彼女というものは、かつて同國の大統領婦人として名をはせた方だ。國民から絶大な支持を受けているファーストレディーの「エビータ」、その人である。

有名なミュージカル

あなたは、広く知られたミュージカル「エビータ」をご存じだろうか？ ティム・ライスの作詞、アンドリュー・ロイド・ウェバー脚色・作曲というゴールデンコンビで制作したもの。ちょうど、この2人が「ジーザス・クリスチ・スープースター」に続いて放ったメガ・ヒット作なので、世界中で注目されたという経緯がある。

「エビータ」は、ロンドンで2900回の公演後、ブロードウェイでもロングランが続く。結局、10ヶ国

で上演され、演劇界に与えたインパクトは極めて大きい。日本でも劇団四季による公演が断続的に行われており、多くのファンが魅了された。



図1

1996年に封切られたのが、同ミュージカルを基盤として、マドンナが主演した映画『エビータ』。

マドンナ自身が歌った主題歌『泣かないでアルゼンティーナ』も、世界中で人気を博したのである。

そもそも、このミュージカルは、実在の人物マリア・エバ・ドゥアルテ・デ・ペロンの人生をもとに構成された。この中に、エバ(Eva)という名前が含まれる。そもそもアダムとイヴのイヴ(Eve)に由来する名前で、この愛称がエビータ(Evita)であり、誰もが認知するようになったというワケだ。

すると、貧富の差が大きかったアルゼンチンで貧しく無学な労働者階級から大きな支持を得ることに。当時、無学や文盲の人々にとって、ラジオが唯一の情報源であり娯楽でもあった。こんな状況で、おそらくエビータの声が人々の心を搖さぶつたのである。

大佐はその後大統領となり、エビータはファーストレディとして政治にも深くかかわっていく。婦人党を組織したり、貧困者への優遇政策や女性参政権の実現など大きな功績を残したの

はラジオ放送番組でペロンの民衆向け政治宣伝を担当したのだ。

すると、貧富の差が大きかったアルゼンチンで貧しく無学な労働者階級から大きな支持を得ることに。当時、無学や文盲の人々にとって、ラジオが唯一の情報源であり娯楽でもあった。こんな状況で、おそらくエビータの声が人々の心を搖さぶつたのである。

国のヒロイン

首都ブエノス・アイレス中心のレティーロ駅前にあるのが、学会会場のシェラトンホテル。そこから少し歩くと、レコレー塔墓地に到着する(図2)。



図2

入口は端正で美しい構造。

尊敬する人や憧れの人に会えるという、莊厳で澄み切った空気が感じられる。敷地に足を踏み入れると、人々が參集している所に気づいた。一目でわかるその場所が、エビータが眠る納骨堂なのだ。

一年を通じて、花が絶えることがない。黒御影石で作られており、表面は気品高く光沢を放つ。5個のボーデの中で3個にエビータの肖像が彫られており、その一つを図3に示す。いずれも、エレガントなエビータが微笑みながら、人々に優しく語りかけてくるかのようだ。



図3

国の歴史が影響

今回、私が参加したのは世界家庭医学会（図4）。南米を中心に大学教授や開業医、政府関係者などが集まつた。最先端医学の講義もあれば、国や時代を問わない医療哲学の議論も続く。つまり、単に病気だけを診るのではなく、病人という一人の人間を全人的に捉える視点が重要である。

学会中に、アルゼンチンの医療政策を担う厚生省の医師と懇談。医学に加え同国歴史を含めた幅広い調査の必要性を認識した。

経済が医療に影響

不安定な経済は、医療にも長年影響する。元来、同国の医療レベルは高く、欧米並みだ。私が視察した都

界で有数の豊かな国の仲間に入りを果たした。

このような状況で、国際的（inter-national）に急速に発展したような場合、国内的（intra-national）に不安定な事件が、とかく起こるもの。富裕階級は歐米流の贅沢に財貨を使い果たしていく。このシワ寄せが労働者階級に及び、ペロン大佐を含む軍人のクーデターが勃発。この状況でエビータが大活躍したのだ。

今回の調査で、諸問題の一端は中央と地方のバランスではないかと考えた。つまり、中央集権体制でしっかり発展していく時期もあれば、地方に自治を任せると、どうなるか。近視眼的対応が主となり、長期の展望を有する政策が後回しとなってしまう。

中央と地方

会の診療所は本邦とほぼ同じ。一方、僻地や山岳部では整備は進んでいない。

また、経済状態で受けられる医療レベルが決まってしまう。このような問題の早急な解決を望みたい。

そこで、私はアルゼンチンの文化、政治、経済、医療などをリサーチした。本来、同国はヨーロッパからの移民が築いた街。「南米のパリ」と称され、生活水準も高かったのだ。

20世紀初頭、世界は2度の大戦に巻き込まれた。当時、同国は戦火を浴びず、逆に物資供給国として利益を得て大きく経済成長。世



図4

ここで、私はアルゼンチンの文化、政治、経済、医療などをリサーチした。本邦ではカリスマ的指導者が現れ、国の方針が変わってきたところ。その評価は短期間にできず、数十年後に判断できる。

現在、小さな政府を目指し、地方の判断が重要視されつつある。しばらくの期

況と対比させてみたい。本邦ではカリスマ的指導者が現れ、国の方針が変わってきたところ。その評価は短期間にできず、数十年後に判断できる。

（板東浩、ばんどうひろし、医学博士、糖尿病専門医、ピアニスト）

エビータの人気がずっと長く継続しているように、我が国が進む方向性について、ずつと観察し考えていただきたいものである。

